

## 令和5年門真市教育委員会第7回定例会

開催日時 令和5年7月31日（月） 午後1時30分

開催場所 本館2階 大会議室

### 議事日程

- 日程第1 会議録署名委員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 議案第20号 令和6年度中学校使用教科用図書の採択について
- 日程第4 議案第21号 令和6年度小学校使用教科用図書の採択について
- 日程第5 報告案件 門真市教育委員会教育長に対する事務委任規則第4条第1項第1号に係る報告
- 日程第6 諸報告

### 本日の会議に付した事件

日程第1から日程第6まで

### 出席委員

教育長	久木元 秀平
教育長職務代理者	土川 好子
委員	高橋 元
委員	松宮 新吾
委員	澤田 京子

### 事務局出席職員

副教育長	八木下 理香子
教育部長	鈴木 貴雄
教育部次長	大倉 善充
教育部総括参事	峯松 大輔
教育部教育総務課長	高岡 華織
教育部学校教育課長	高山 拓也
教育部学校教育課参事 兼教育センター長	植原 宏仁

久木元教育長                    開会宣告      午後 1 時30分

日程第 1                        会議録署名委員の指名

久木元教育長より 土川 好子 委員を指名

日程第 2                        会期の決定

会期は、本日 1 日とし、翌日令和 5 年 8 月 1 日を予備日と決定

久木元教育長： 次に本来なら、日程第 3、議案第20号「令和 6 年度中学校使用教科用図書採択について」、続いて、日程第 4、議案第21号「令和 6 年度小学校使用教科用図書採択について」を議題とするところですが、議事の進行上、報告案件及び諸報告を先に審議してよろしいでしょうか。

[全委員異議なし]

日程第 5                        報告案件      門真市教育委員会教育長に対する事務委任規則第 4 条第 1 項第 1 号に係る報告

久木元教育長より、本件は、個人情報にかかわる部分が含まれ、秘匿にする必要があるため、非公開にて審議したいとのこと、各委員に諮ったところ、全委員異議なく、了承、非公開にて審議された。

[教育長室へ移動 非公開]

出席者 教育長、教育委員 4 名、八木下副教育長、鈴木教育部長、大倉教育部次長、峯松教育部総括参事、高岡教育総務課長、学校教育課長

[議事録 省略]

[報告案件終了]

時間 午後 1 時34分から午後 1 時36分

日程第10

諸報告

番号 1 令和 5 年度門真市教育研究指定校について

説明者 植原学校教育課参事

諸報告資料 1 ページをご覧ください。

教育研究指定校制度は、指導方法の工夫改善や生徒指導等、特色ある教育研究活動に積極的に取り組む学校に対して、1校あたり20万円の予算補助を行い、研究推進をサポートするものです。

今年度は、上野口小学校、北巢本小学校、門真はすはな中学校、新規といたしまして、砂子小学校の4校を研究指定校として決定いたしました。各校の研究主題と要旨は、一覧のとおりでございます。

なお、一覧表に公開日を記している学校におきましては、研究成果を市内に発表する予定でございます。

—すべての報告が終了—

久木元教育長： 次に、日程第3、議案第20号「令和6年度中学校使用教科用図書の採択について」、続いて、日程第4、議案第21号「令和6年度小学校使用教科用図書の採択について」を議題といたしますが、松宮委員、澤田委員につきましては、小学校、中学校の教科用図書の執筆に係わっておられると申出がございました。

そのため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第6項に基づき本議事に参与することができませんので、両委員にはご退出していただきたいと思いますと思いますが、ご異議ございませんか。

[全委員異議なし]

[松宮委員 澤田委員 退出]

日程第 3

議案第20号 令和6年度中学校使用教科用図書の採択について  
説明者 植原学校教育課参事

議案書の1ページをご覧ください。

令和6年度に門真市立中学校において使用する教科用図書につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」第14条「義務教育諸学校において使用する教科用図書については、政令の定めるところにより、政令で定める期間、毎年度、種目ごとに同一の教科用図書を採択するものとする。」との規定に基づき採択を行うこととなります。

同一教科書を採択する期間につきましては、「義務教育諸学校教科用図書の無償措置に関する法律施行令」第15条第1項の規定により、4年間と定められております。

また、令和5年3月31日文部科学省初等中等教育局長通知、教科書採択における公正確保の徹底等についての「令和5年度の教科書採択における留意事項について」において、中学校用教科書について、令和6年度においては、学校教育法附則第9条第1項の規定により教科書以外の教科用図書を使用する場合を除き、基本的に令和5年度と同一の教科書を採択しなければならないとされております。

中学校では、令和5年度は、2ページに掲載しております一覧の教科用図書が採択されております。

[全委員異議なく、可決]

日程第 4

議案第21号 令和6年度小学校使用教科用図書の採択について  
説明者 植原学校教育課参事

議案書の3ページをご覧ください。

令和6年度に門真市立小学校において使用する教科用図書につきましては、同一の教科用図書を採択する期間が令和6年3月31

日をもって満了するため、令和6年度に使用する13種目の教科書を、4ページにお示ししております「令和6年度小学校使用教科用図書 発行者別一覧」の中から種目ごとに1種類の教科用図書を採択いただくために本案を提出するものです。

これまでの経過をご説明いたします。令和5年第4回定例教育委員会におきまして、教科用図書の調査・研究に伴う門真市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会の設置と選定委員会に対する諮問の決定を賜りました。

これに基づきまして、選定委員会におきましては、教科書見本本、本市調査員からの「調査員作成資料」、大阪府教育委員会作成の「教科用図書選定資料」などを参考に、慎重な調査研究と審議を重ね、その結果をまとめて5月25日付けで答申がございました。

説明は以上でございます。本市小学校使用教科用図書全13種目を決定するため、よろしくご審議の上、ご採択賜りますようお願い申し上げます。

久木元教育長： 確認ですけれども、答申が出た日はいつですか。

植原学校教育課参事： 7月25日です。

久木元教育長： 今回の小学校使用教科用図書の選定につきまして、「令和6年度小学校使用教科用図書の適正な選定について」を門真市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員長に諮問し、意見を求めました。

選定委員会からの答申は令和5年7月25日にいただきましたが、その際、選定委員会からは適正かつ公正で開かれた教科書採択を目指して、5月19日、7月4日、7月11日、7月18日の4回にわたり慎重かつ精力的な審議を重ね、選定資料を作成したとの報告をいただいております。

また、これと並行しまして、我々各教育委員の方でも6月中旬から自宅並びに教科書センターにおいて教科書見本本を熟読の上、どの教科書が本市の児童にとって適切なのか、門真市選定委員会答申及び門真市選定資料、大阪府教育委員会の選定資料、学校からの意見書や教科書センターに寄せられました一般の方々からのご意見なども参考に、採択に係る全ての教科書と十分に照

らし合わせながら、調査研究を行ってまいりました。

本日は、これまでの検討内容をもとに審議を行い、本市の児童にとって適切な教科用図書を選択していきたいと考えております。教科書見本本につきましては各委員の机上に、これからお配りいたします。これまでの間に、これらの資料をもとに充分検討をしてまいりましたので、資料は必要に応じて参考にしながら審議を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

何かご意見ご質問等がございましたらよろしく願いいたします。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： それではただ今より、門真市立小学校使用教科用図書の適正かつ公正な採択を行うため慎重に審議を進めていきたく思います。

まずはじめに、審議を行う種目の順番についてです。順番は、選定資料の番号順でよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： それではただ今より、審議してまいりますが、今回の採択にあたりましては、「目標・内容の取扱い」「人権の取扱い」「発達段階への考慮」「組織・配列」「学び方の工夫」「補充的な学習・発展的な学習」の6つの観点を中心に調査を進めまいりました。

また、本市の子どもたちの特徴にも留意し、独自の観点も加味し、調査してまいりました。

本日の審議にあたりましては、以上の点を改めて確認し、進めて参りたいと考えております。審議にあたりましては、各委員より順次発言を願います。内容としましては、各教科書会社について、評価すべき点をご発言いただいたのち、総合評価した順位付け等とその理由をお願いしたいと思います。

なお、最終的に多数決はとりませんが、全員合意を前提にまとめさせていただきます。審議の途中で随時、教科書の確認もさせてもらいながら慎重に進めたいと考えております。

久木元教育長： それでは国語から審議いたします。

準備はできましたでしょうか。それでは国語から審議いたします。国語は3社出ております。それでは、土川委員からご発言願います。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、作品紹介数が多く、作者の別の作品も紹介しているので、いろいろな作品にふれる機会が多くなるので良いなと感じました。

教育出版については、1年生の上14ページから17ページにある運筆やなぞり書きのページが豊富で、入学当初の児童の学び初めにやさしい教科書で良いなと思いました。

光村図書については、巻頭の「国語の学びを見渡そう」で、各学年の学びの流れが分かりやすく示されていて、学ぶ児童も分かりやすいのではないかなと感じました。

総合的には、東京書籍と光村図書がいいのではないかと考えています。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員お願いいたします。

高橋委員： まず東京書籍につきましては、二次元コードが非常に多い点は良いなと感じました。その理由は、GIGAスクール構想で、子どもたちに端末が配布されてから今年で3年目、来年は4年目ということで、更に活用が広がれば良いと考えております。また、4年生の上12ページにはデジタルノートの作り方が載っているのも、子どもたちにはわかりやすく良いなと思いました。

次の教育出版につきましては、同じ観点ですが、「まなびリンク」が表紙をめくったところにあり、QRコードを読み取ることで「写真」「動画」「資料」「ワークシート」などにつながるところは良いなと感じました。

最後に光村図書につきましては、巻頭に「国語の学びを見渡そう」があり、学習内容や各学年の学びの流れつかみやすくなっている点は、子どもたちが学びをすすめていく上で、整理しやすくなっていて良いと思いました。4年生の上では、5ページにあります。

総合的には、学習内容がつかみやすく、各学年の系統性がより意識しやすいといった点では、東京書籍、光村図書がいいのかな

と、デジタル活用の点でいくと東京書籍が良いのではないかと考えています。

久木元教育長： それでは、私から個人的な意見ですけれども

東京書籍につきましては、先程もご意見出ましたが、情報教育やインターネットなど現在の学びに即した内容が充実しているように感じました。特に5年生の46ページ「インターネットは冒険だ」6年生の90ページですけれども、「インターネットの投稿を比べよう」という項目は、ネット社会における問題点、情報リテラシーに係るもので、他社に比べて比重を置いておられるなと感じたところがございます。さらに、府の選定資料でも、二次元コード等の取り扱いは、東京書籍は、充実していることが分かります。府の選定資料、国語の16ページに記載されております。学び方の部分でも、教科書の初めに4年生であれば、上の8ページに「学習の進め方」が載っておりまして、良いなと感じました。

続いて、教育出版についてでございますが、学びのステップが確認できるように必要に応じて、「学習の進め方」の欄が設けられております。4年生でいいますと、上の58ページや102ページでございますが、このあたりが丁寧だと思いました。

続いて、光村図書についてでございますが、これも先程申しましたが、学び方の部分では「国語の学びを見渡そう」があることに加え、教科書に目標的なものを書き込めるようになっております。4年生の上の13ページ、また、下では144ページになりますけれども、1年間を振り返って、を書き込めるようになっているのは、いいなと感じました。

それと、巻末の方の習った漢字のまとめが非常にわかりやすいと感じました。

さらに、5年生の教科書222ページですが、「子ども未来科」というテーマが設定され、これからのキャリア教育を進めていく上で非常に参考になるような教材だと思いました。

総合的には、学び方の部分で申し上げますと、東京書籍・光村図書が本市の子どもたちに合っているのかなと思いますが、併せて、インターネットや情報教育など、現在そして今後の学びに即した内容を考えますと東京書籍の方がより優れているなというふうに考えます。

私も含め、3名のご意見をまとめますと、東京書籍と光村図書



でのご意見が出てきていたかなと受け止めていますが、再度、両社についてのご意見を聞かせて頂いてもよろしいでしょうか。それでは、高橋委員から。

高橋委員： 私も2社で迷ったんですけれども、やはり情報教育やインターネットなど現在の学びに即した内容が充実しているという点で考えますと、東京書籍の方が良いのかと思います。

土川教育長職務代理者： たしかにそうですね。東京書籍は二次元コードが非常に多いという点も印象的でした。府の選定資料を確認すると、東京書籍は、図書館及び情報機器活用や紹介されている図書の冊数についても充実しているので、良いと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。光村図書と東京書籍を比較した場合、例えば東京書籍の方は、1年生の37ページなんですけれども、日付の読み方、「ついたち」「ふつか」「みっか」「よっか」「いつか」「むいか」「なのか」「ようか」「このか」「とうか」「はつか」と、非常に子どもたちにとって読み方が難しいものですね、東京書籍の方はきちんと親切に、丁寧に扱っておられるかなということで、特に我々は日本語指導を要する子どもたちが生きる中で、このあたりの要素が大事なポイントかなと、両社を比較した場合に考えました。

ということでまとめますと、昨年度ですね、学力調査等の分析を行った結果から、本市におきましては「読む」領域に課題がみられるということがわかっておりますが、そういった点も含めまして、府の選定資料を確認した上で、東京書籍が、他の2社との比較において充実していると言えるかなと思います。

他に ご意見はいかがでしょうか。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： それでは総合的に判断いたしまして、国語につきましては東京書籍ということで決めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、国語につきましては、東京書籍を採択いたします。

続きまして書写の審議をいたします。書写は、3社出ております。それでは、土川委員からご発言願います。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、1年生において、17ページなど、字形を整えるために4つの部屋のどこから書けばよいかが大変分かりやすく説明されているのが良いと感じました。各社工夫されているのですが、東京書籍が分かりやすいと思います。

教育出版については、巻頭、表紙をひらいたページの工夫が子どもに書く意欲を高める工夫がされていると感じました。特に、6年生の「世界の書く」のページが特徴的でおもしろく、各国の様子にもふれることができるのが良いと感じました。

光村図書については、4年の21ページ「食品ロスポスターを作ろう」などのSDGsに関連した内容が取り扱われているのが良いと感じました。

総合的には、教育出版も特徴がありおもしろいと思いますが、書き方の説明が大変わかりやすいという点で東京書籍が良いと思います。

久木元教育長： それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、1年生の3ページにある書き方や姿勢のページにおける色分け、「あし、ぺた、ぴん」のところや、8ページにある見本となる文字がうすいブルーで色覚的にも大変見やすい点が良いと感じました。

教育出版につきましては、4年の46ページ、5年36ページなどにあります手紙の書き方のところが大変分かりやすく書かれている点が良いと感じました。

最後に光村図書につきましては、4年生の20ページや、5年生の24ページなど、他教科や生活に結びつけるところが、他社にもあったのですが、光村図書では特に多くありましたので、そこが良いなと感じました。

総合的には、3社ともそれぞれ良さがあったのですが、他教科への広がりが多かったという点で、光村図書が良いと感じました。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、私から意見を述べさせていただきます。

東京書籍につきましては、先程もありました、書写で学んだことを他教科に広げるといふ部分において、特に充実されているかなと感じました。

そして、教育出版でございますが、1年生の巻末にあります46ページ、2年生の10ページもそうなんですけれども、「とんっ・すうっ・ぴたっ」等のオノマトペを使った書き方のポイントが、見開きで見やすくまとめられているのが非常に良いと思いました。

そして、光村図書でございますが、二次元コードの数が一番多く、コンテンツの数も3社の中では一番多くなっているのは、特徴なのかなと感じました。

総合的に申し上げますと、他教科を意識しているという点で、東京書籍が良いかなと思いました。

久木元教育長： 今、ご意見が分かれております。

再度、ご意見を聞かせて頂きたいと思います。

光村図書と東京書籍ですね、その二社についてよろしく願いいたします。

土川教育長職務代理者： 今、一度他教科に広げるといふ観点で見直したのですが、光村図書の数が多いというのも魅力ですが、見やすさや内容の分かりやすさ、子どもたちを考えた時には、東京書籍の方がいいのかなと思いました。

高橋委員： 私も土川委員と同じ意見ですけれども、他教科に広げるといふ観点で、東京書籍の方が数が少ないという訳ではありませんので、見やすさや子どもたちが自ら学びやすいといったところを含め考えますと、東京書籍の方が良いと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。お二人の東京書籍のご意見がありましたように、字形を整えるための書き方の説明や、見本の字がうすいブルーで見やすい点などは高く評価できると思います。分かりやすさや見やすさは本市の子どもたちが使う教科書としてはと

でも重要なポイントだと思います。

それでは総合的に判断いたしまして、書写につきましては東京書籍ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： 異議なしということで、書写につきましては、東京書籍を採択いたします。

続きまして、社会の審議をいたします。社会は3社出ております。まずは、土川委員ご発言よろしく願いいたします。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、5年生下を例にすると、5ページや7ページにあるQRコードで導入の動画を見ることができたり、ビンゴクイズができたりと、デジタルコンテンツが工夫されていると感じました。また6年の教科書では、歴史編と政治・国際編の分冊になっているのも、分かりやすくてよいのかなと私は感じました。

教育出版については、各学年の巻末にある「学習をふりかえろう」のページで、自らの学びや学習したことを把握しやすいと思いました。3年では、160ページにあります。

日本文教については、写真が大きく配置されており、比較などもしやすいと感じました。3年生の62ページでは、門真ではないですが、れんこん作りが取り上げられていて、門真の子どもたちには、親しみを感じることが出来ると感じました。

総合的にどれも分かりやすかったのですが、中でもデジタルコンテンツ工夫もされている東京書籍がいいと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。高橋委員、お願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、5年生の下の5ページに、大阪府門真市でつくられた水筒が載っています。先程の土川委員もおっしゃっていたように、門真の子どもたちにとって親しみが湧くことに加えまして、自分たちの市を誇りに思うことにもつながりますので、良いと思いました。

次に、教育出版につきましては、5年の58ページなどにある「もっと知りたい」のページが、これまでの学びを生かして考え

ることができる資料として提示されておりまして、良いなと思いました。

最後に、日本文教につきましては、6年の203ページなどにあります「キーワード」がわかりやすく示されていて、学習用語を確認しやすいのがよいと思いました。

総合的には、門真の子どもたちにとって親しみが湧く東京書籍がよいように思います。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは私から述べますが、東京書籍については、学び方の部分で、「つかむ→調べる→まとめる→いかす」とアイコンが大きく表示されており、そのページの学習活動が一目で分かるとともに、単元の流れが分かりやすいのが良いと思いました。また、内容面でございますけれども、竹島・北方領土・尖閣諸島などの領土問題について、日本の立場や歴史的な経緯をきちんと説明している点が良いと思いました。さらに6年の歴史の153ページにあります、戦争当時の日本が中国や朝鮮の人々に対して行ったことについても、しっかりと書かれていて良いなと思いました。

教育出版でございますけれども、5年生155ページに、「ふせんを使って整理する」というものがあり、学習の工夫やグループ学習の意図が見えて効果的だと感じました。また現在、ICT関係で端末が整備されたわけでございますけれども、その中で、「ふせん機能」というのも使うことができると思います。あとは6年生の内容でございますが、208ページなんですけれども、太平洋戦争に至る経緯がわかりやすく書かれております。また、205ページですけれども、「どうしてこんなことが起こってしまうのか」というような問いかけが、子どもたちに考えさせるという意味で良いのかなと感じました。

続いて、日本文教でございますけれども、どの学年もSDGsとのかかわりを意識してページが作られている点は非常に効果があると感じました。

以上、総合的な評価でございますけれども、ほとんど差はなかったのですが、若干、教育出版と、学習活動や学習の流れがつかみやすい東京書籍が良いかなと感じたわけでございますが、いかがでしょうか。

土川委員も東京書籍を推しておられましたし、高橋委員も東京

書籍を推しておられましたので、まとめますと、東京書籍が良いのかなと思うのですがいかがでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： わかりました。ありがとうございます。  
それでは、社会につきましては東京書籍ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： 異議なしということで、社会につきましては、東京書籍を採択いたします。  
続きまして5種目目、地図の審議をいたします。地図は、2社出ております。それでは、まず土川委員ご発言願います。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、81 ページなどにある、特徴のある地形・特産物・観光地が絵で書き込まれていて分かりやすく良いと思いました。  
帝国書院については、配色のよさ、見やすいのがいいと感じました。そして、パラスポーツのさかんな国の紹介において、車いすバスケットが取り上げられており、お互いの人権を尊重するような内容が載っていていいと思いました。これは 90 ページにあります。  
総合的には、地図の見やすさという理由から帝国書院がいいと思いました。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、歴史学習と結びつけられるよう、京都市や奈良市の中心部が写真やイラストでわかりやすく記載されているのいいと思いました。これは 33 ページにあります。  
次に、帝国書院につきましては、近年増えております災害についての内容や資料が充実しておりまして、災害等についても重点的に学習することができるのかなと思いました。それにつきましては、99 ページから 102 ページあたりにあります。また、他教科

との関連も十分意識されているように感じました。  
総合的には、帝国書院の方がいいと思います。

久木元教育長： それでは、私からですけれども、東京書籍につきましては、先程ご発言ありました81ページから82ページにかけての「日本の伝統文化」のところで、我が国の国土と歴史に対する愛情が、より育まれる構成になっているところが評価できるかなと思います。

一方、帝国書院につきましては、地図の見やすさですね、土川委員と同じなんですけれども非常に見やすいと感じました。特に、84ページ以降、持続可能な社会の実現に向けた各地の課題や取組が理解できるようSDGsに関連する写真や資料が多数掲載されているところが今日的教科書としてふさわしいかなと思いました。

総合的に判断いたしますと、帝国書院の方が優位になるかなと考えております。

それでは、まとめさせていただきます。

私も含め、3名のご意見を聞いていますと、見やすさや内容面等において、帝国書院の方が良いかなというご意見が多かったと受け止めておりますが、他にご意見があればお聞かせください。

全委員： 異議なし

久木元教育長： それでは、特にないようでございます。地図につきましては、帝国書院ということによろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： 異議なしということで、地図につきましては、帝国書院を採択したいと思います。

それでは、算数の審議をいたします。算数は、6社出ております。まず土川委員、ご発言をよろしく願いいたします。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、QRコードがほとんどのページにあり、動画が見やすくて良いなと思いました。また、ページの中の情報量が適度で、図や表も多く取り入れられ、見やすく感じ、その点

も良いと思いました。

大日本図書については、6年の30ページなどにある「ふくろう先生のなるほど算数教室」のページなどで、興味・関心を深めようとしているように構成されているのが良いと感じました。

学校図書については、「考え方モンスター」を使って、見方・考え方のポイントが学年ごとにまとめられており、児童が分かりやすい様に工夫されているのがいいと感じました。

教育出版については、文章の記述や文章量は比較的少なく簡潔に書かれていて分かりやすくいいと感じました。

啓林館については、1年のスタートブックが大判であるのと、2ページ3ページに幼児期の体験を多く載せてあり、小学校の学習へとつなげていくよう発達段階を考えた内容になっている点がいいと思いました。

日本文教については、具体物を操作したり、それを絵や図に書いたりしやすいようになっているのがいいと感じました。3年上の13ページ、24ページ、84ページなど。

総合的には、6社ありますので、1社には決めにくく、東京書籍・啓林館・日本文教がいいように感じました。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、よろしくお願いたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、土川委員と重なるのですけれども、QRコードで単元の初めに動画が設定してありまして、学習への導入には有効だと感じました。

次に、大日本図書につきましては、単元の最後に、「たしかめ問題」と題した学びを確かなものにするための復習内容があり、学習内容を確認できる構成がいいと感じました。

次に、学校図書につきましては、3年下の146ページなどにあります、SDGsを意識しながら算数を使って社会問題を考えさせる内容の記載がありまして、今の学びに即していいと感じました。

次に、教育出版につきましては、6年の182ページにあります「学んだことを使おう」のページで、学習したことを、実生活に生かせるような工夫がされていると感じました。

次に、啓林館につきましては、5年の210ページなど、数量関



係や変化を図・表に整理して解決する文章問題を取り扱っておりまして、発展的な力を養うように構成されているところは良いなと感じました。

最後に、日本文教につきましては、学習の進め方が門真市授業スタンダードと同じ流れになっておりますので、良いなと感じました。

総合的には、私も1社にはなかなか決めにくく、東京書籍・啓林館・日本文教がよいように感じました。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、私から意見を述べさせていただきます。

東京書籍でございますが、6年生の23ページ、31ページなど見られます、小中のつながりという観点から、6年生では「中学の旗」「算数卒業旅行」という部分が掲載されているのが良いなと感じました。併せて、特に中学校でつまずきやすいと載っております「速さ・時間・距離」、この問題に重点が置かれていると感じました。以上が良いなと思った点です。

大日本図書でございますが、2年以上の目次に既習事項とのつながりが記載されておりまして、学習のつながりを感じやすいところが良いなと思いました。

併せて、3から6年生、3年生でいいますと220ページなんですけれども、「お仕事インタビュー」というところで、算数と仕事とのつながりといいますか、そういったものを子どもたちに訴える部分については評価できるかなと思いました。

続いて、学校図書でございますけれども、これにつきましては、大阪府の選定資料27ページにも記載がございますが、授業が対話的に進められるよう教科書が工夫されており好印象でございます。

続いて、教育出版でございますけれども、6年生214ページの「算数をふり返ろう！もっと楽しもう！」という欄で、中学校につながる問題が記載されており、発展的な学習という点から、なかなか良いのかなと思いました。

続きまして、啓林館でございますが、6年生230ページからの「未来へのとびら」ですね、先程大日本図書でも申し上げましたが、キャリア教育のつながりというところで本市が重点課題としているキャリア教育、特に日常生活とキャリアとのつながりとい

う内容が掲載されており、ちょうど中学校に入る前ということで、中学数学はそういったことが大事だと意識させるという意味で、タイムリーかなというふうに思いました。

併せて啓林館は、1年生の下126ページになるのですが、子ども向けの数の概念ですね、「多い」「少ない」などの概念が徹底されているなと思いました。

併せて、プログラミング的思考ですね、啓林館では2年生のから取り入れられているというところが特徴的かなと思いました。

続きまして、日本文教でございますけれども、巻末に児童の実態や興味・関心に応じて学習を深め広げたりできる「しっかりチェック、ぐっとチャレンジ、もっとジャンプ」といった項目があり、補足的な学習というところで効果的かなと感じました。

総合的に判断いたしますと、なかなか絞り切れなかったのですが、東京書籍と啓林館が優れているかなというように思います。

まとめていきたいのですが、現在のところ、土川委員も高橋委員も3社ということで絞り切れておりません。

まとめますと、東京書籍・啓林館・日本文教、この3社が候補として挙がっておりますので、この3社の中から再度、お二人のご意見を聞かせても頂いてよろしいでしょうか。その他についてもあればお願いいたします。

冒頭に申し上げましたように、採択にあたる観点といたしまして、本市の実態、子どもたちの実態を踏まえながら「子どもたちの主体的な学び」や「GIGAスクール構想」、「キャリア教育」、「子どもたちの学びへの現状」ですね、そういったものを踏まえながら、ご意見をお伺いできたらいいかなと思います。その際、市の選定資料や府の選定資料も再度見直していただきまして、ご意見をお願いしたいと思います。

土川教育長職務代理者： 私は、門真市の子どもたちを見ていると、学びに向かうといったところ、主体的に向かうというところが弱いと強く感じています。「やらされている」というか「仕方なくやっている」どうしてやっているのかの意味を考えていない子どもが多いのではないかと思います。

そういったところで考えますと、日常生活につながるというところにおいて工夫されている教科書がいいのかなと思います。府の選定資料27ページを拝見すると、啓林館や日本文教が数の面

では適しているのかなと考えます。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。府の選定資料 27 ページですね。「学習したことが、日常生活につながる場面において取り上げているコーナーの箇所数」というところですね。

では、高橋委員お願いいたします。

高橋委員： 土川委員もおっしゃいましたように、本市の子どもたち主体的に学ぶというところは弱いように思っています。それは、いろいろな学力調査のアンケートで明らかになっておりまして、家に帰ってからの学習の時間が大幅に全国に比べて少ないことからもうかがいしれます。これは、学びに主体的になっていない、意欲が育まれていないとも言えると思います。もちろん、家に帰ってからのことですので、家庭教育との連携が不可欠な部分なんですけれども、ただ学校の授業でも、出来ることがあると思います。日常生活につながることを子どもたちが強く感じる事が出来れば、学習意欲も上昇するのではないかと考えます。そういったところで考えると、土川委員と同じく、啓林館と日本文教が良いのではないかなと考えます。

久木元教育長： 2社に絞られてきましたが、今の発言の中で、本当に本市の課題の部分でございます「主体的に学ぶ」という視点での判断が重要だと思います。キャリア教育につきましては、我々の方も昨年度「キャリア教育指針」を作ったりして、今年から本格的に動いているところなんですけれども、本当にそういった部分での、推進というのが大事かなと思います。

採択は我々の責任と権限を持って採択を進めるものではございますけれども、市の選定資料を十分に参考にした上でということでもございますので、今一度、市の選定資料もご覧いただきながら、啓林館と日本文教について、ご意見をお伺いできたらなと思うのですが、では土川委員、お願いいたします。

土川教育長職務代理者： 日本文教は、丁寧なつくりで、先生にも子どもにも優しいなという印象を受けています。巻頭にあるノートづくりのページにおいても、わかりやすく書いてあります。分冊になっている2年生や4年生を見てみると、上・下ともに載っています。これが、今

いいのかというところです。啓林館も載っていますが、上だけです。上にあれば、確認することはできるので、これでもいいかもしれません。

高橋委員： 日本文教は、わかりやすい、丁寧だという印象は土川委員と同じです。私は、門真市版授業スタンダードにある問題解決型の流れで学べるかどうかという視点で再度見直したのですが、日本文教・啓林館両方ともそのような流れで学べるようになっていていると思います。そして、日本文教は、「学び方の4ステップ」という表現で巻頭に学び方が示されていて子どもたちが確認できるようになっています。啓林館は、「学習の進め方」として同じく巻頭に載っています。これは、ノートづくりと違いまして、日本文教・啓林館共に、上下分冊になっている学年においても、すべてに載っています。ここから考えると、学び方というところを啓林館は、大切にしているのかなと感じました。

久木元教育長： 一番大事なポイントをついておられると思います。門真市の子どもたちは、主体性や意欲面で弱いように感じておりますので、そういったところを考えた際、教科書の丁寧さが本市の子どもたちにとってどうなのか。丁寧すぎる方がいいのか。そうじゃない方がいいのか。今後求められている力を育むといったところで考えますと、どうなのかと思うんですけれども、ご意見をお聞かせいただけますでしょうか。

高橋委員： 市の選定資料の日本文教の下から二つ目のマルの項目につきまして、「教員も説明しやすいので、児童も理解しやすい」というところがあります。これをどう評価するかになるかと考えます。分かりやすいということは、子どもの思考を逆に少なくするということにもなると考えます。

一方、府の選定資料を見ますと、27ページになりますけれども、上から二つ目のマル、「各観点について取り上げている箇所数」の一番下の項目、「吹き出しなどの「…」の部分を考えることでめあてに向かうことが出来る箇所数」におきまして、啓林館が日本文教よりも多くなっています。啓林館の教科書では、子どもたちが主体的に学びに向かう工夫がされている、といえるのではないかと思います。そういったことを考えますと、啓林館が今の門

真の子どもたちには合っているのかもしれないと感じました。

久木元教育長： 啓林館の今のところは526ですね。日本文教が295ということ  
でよろしいですね。ありがとうございました。

土川教育長職務代理者： 先程申し上げたように、日本文教の方が「丁寧なつくりになっ  
ている」、「分かりやすい」と考えていました。ただ、高橋委員の  
お話やこの間の門真市の現状を考えると、丁寧すぎるのが必ず  
しも子どもたちのためにならないのかも知れないと思いました。  
予測不可能な未来を生きる子どもたちに力を育むことが今の学  
校現場には求められています。そういった意味では、高橋委員と  
同じように、啓林館の教科書がいいように思いました。

久木元教育長： ありがとうございます。だんだんと絞られてきたとは思いますが、  
今の門真の子どもたちの実態というところで非常に共感でき  
る部分があります。1つ、意見を付け加えさせていただきますと、  
門真の子どもたちは学力が非常に厳しい状況ではありますが、改善  
傾向にもあります。特に、算数・数学は改善傾向にございます。  
そういった部分も考慮しまして、来年度からの教科書を考える際、  
「日常生活につながり、子どもが主体的に取り組む」工夫がされ  
ている教科書を選ぶことで、意欲面を学校で育むことにつながり  
まして、改善傾向にある学力をさらに向上させることにつながる  
のではないかと考えます。授業におきまして、日常生活とのつな  
がり、あるいはキャリア教育。そういったことを意識させること  
は今の門真の子どもたちには、必要なことだと考えますが、他に、  
ご意見はないでしょうか。

高橋委員： QRコードについても見てみました。啓林館は、各単元の初め  
のQRコードでは、解説動画になっていまして、子どもが自分で  
学びを進めることもできます。これからの先生の役割は、教える  
ことから、支援役が求められるということも聞いております。そ  
ういった活用も啓林館の教科書ではしやすいように思いました。

土川教育長職務代理者： 啓林館は、表紙の工夫も子どもの興味・関心をくすぐり、いい  
と感じました。

久木元教育長： この表紙ですね。表と裏ではものの見方が違うという。

土川教育長職務代理者： はい。表と裏では見方が違ったように。どの学年においてもその形になっているので、内容的にもそういった工夫がされているのかしらと感じました。

久木元教育長： ありがとうございます。他にいかがでしょうか。特にございませんか。

それでは、ここまでのところをまとめますと、啓林館ということで集約できるかなと思いますけれども、啓林館でよろしゅうございますでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： それでは、異議なしということでございます。算数につきましては、啓林館を採択いたしたいと思えます。

続きまして、理科の審議を行います。理科は、5社出ております。それでは、土川委員ご発言願います。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、多色の使用を控え、全体の色調を緑とオレンジで統一し、児童が落ち着いて学ぶことができるよう配慮されているので、いいと感じました。

大日本図書については、各ページ問題解決の過程のマークが、3・4年は「予想しよう」「計画を立てよう」「考えよう」と表記されているが、5・6年は「予想」「計画」「考察」と表記されており、発達段階を考慮していることがいいと思えます。3年の7ページから10ページ、5年の7ページから8ページなどです。

学校図書については、その学年で育成すべき資質・能力が「理科モンスター」で記され、確認しながら学習することができる点がいいと思えました。3年の4ページ、4年4ページなどです。

教育出版については、実物大や見開き表示などで迫力あるイラストや写真が掲載され、興味・感心を高める工夫がされていました。5年の98ページ、6年の42ページなどです。

啓林館については、「問題をつかもう」や「予想・計画」を立てる場面で、話し合い活動が設定されているのが、わかりやすくてよいと思えました。3年の22ページ、4年の30ページ、5年

の 20 ページ、6 年の 12 ページなどです。

総合的には、学習場面において対話的な学びが充実している啓林館がいいのではないのでしょうか。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、よろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、表紙にフルサイズの写真を用いております、児童が理科に対して興味・関心を持てるような特徴的な表紙だなと感じました。

次に、大日本図書につきましては、巻頭に「理科の学び方」が掲載されておりまして、児童が主体的に学習に取り組むための基礎が学べる内容になっていてよいと思います。これは各学年の 2 ページから 3 ページにあります。

次に、学校図書につきましては、単元の導入部分に見開き写真のページが設定されており、右側に対話の列を配置しているのが分かりやすく、いいと思いました。これは 3 年生の 17 ページなどにあります。

次に、教育出版については、裏表紙に安全の手引きがあり、事故・ケガの防止につながる内容が掲載されていて良いと思いました。

最後に、啓林館につきましては、各学年の巻頭で学習の進め方や考え方、ICTの活用についてわかりやすく例示されている印象で、いいなと思いました。これは 3 年生の 3 ページ、4 年生の 3 ページ、5 年生の 3 ページ、6 年生の 5 ページにあります。

総合的には、端末を活用した取り扱いもできるといった意味で、啓林館がいいと思いました。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、私の意見を述べさせていただきます。

東京書籍でございますが、「学ぶ前に」「学んだ後に」といった項目が設定されております。児童自身が理解度や成長を実感できるような構成になっている点が評価できるかなと思います。

次に、大日本図書でございますけれども、QRコードが非常に多いのが特徴かなと思いました。

学校図書でございますが、学習の振り返りとして「やってみよ

う」といった設定があります。学んだ知識が生活の中で役に立つことを実感できるような工夫が良いなと感じました。

教育出版でございますけれども、実験・観察の結果が予想と違った場合について丁寧に取り上げられ、自分の考えや調べ方を見直すことの大切さを実感できるように配慮されている点が優れているように感じました。

啓林館でございますけれども、科学的な根拠をもとに、他者と協働しながら、結論をまとめていくといった学びの工夫ですね、「結果から考えよう」のページが、適所に設けられている部分が非常に優れているのではないかなと感じました。

ということで、3名とも啓林館ということなんですけれども、ちょっと事務局に確認させてもらいますが、東書と大日本図書が大判ですね、啓林館とあと3社が小さい判ということでございますけれども、現場の意見等については、どんな感じでしたか。

植原学校教育課参事： 選定資料によりますと、小さいほう、B判ですかね？小さいほうの方が活用しやすいという意見が載っておりました。

久木元教育長： わかりました。ということで、教科書会社によってそういった差もあるわけでございますけれども、本日の委員の意見を求めますと、啓林館がいいかなと、現場の意見も踏まえながらですね、いいかなという意見が多かったと思いますけれども、他にご意見ございましたら。よろしいですか。

それでは、理科についてまとめさせていただきますと、啓林館ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： 異議なしということで、理科につきましては、啓林館を採択いたしたいと思えます。

続きまして、生活の審議をいたします。生活は、6社出ております。それではご発言をお願いいたします。土川委員。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、上の42ページにあるような吹き出しがよく使われ、子どもたちの気づきや疑問を促す工夫がされているところがいいと感じました。



大日本図書については、下の 76 ページや 87 ページなどを見ると、レイアウトがすっきりしていて見やすく良いと思いました。

学校図書については、上の 32 ページや 66 ページなどから、写真やイラストのレイアウトがとても見やすくいいなと思います。

教育出版については、上の 46 ページや 100 ページのように大きな写真をもとに考えさせたり、イメージを持たせたりできるところが良いなと感じました。

光村図書については、上の 29 ページや 43 ページ等、随所に、「保護者の皆様へ」の欄があり、保護者とのつながりも考えられた構成になっているのがいいなと思います。

啓林館の、上の 117 ページの「できるかな、できたかな？」では、自分が学習したことを振り返りやすいように工夫されているのがいいと思いました。

総合的には、光村図書がいいと思います。

久木元教育長：それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員： まず、東京書籍の、上 121 ページから 128 ページにある「いきものずかん」のページでは、さまざまな植物が実際の大きさを表現されているところが見やすく良いなと思いました。また、QRコードが多くついていて、より詳しく調べることができるようになっているのがいいと思いました。

次に、大日本図書につきましては、上の 54 ページや 75 ページのように観察したことを、教科書に直接書き込むことができるなど、使いやすさを感じまして、いいなと思いました。

次に、学校図書の、上 125 ページから 136 ページの「まなびかたずかん」のページでは、学び方や考え方が分かりやすく示されていていいなと思いました。

次に、教育出版の、下の 6 ページなど、単元や学習内容ごとに、どんな力を身につけるのかが分かりやすく示されているところがいいなと感じました。

光村図書につきましては、絵本風の表紙や工夫されたイラスト、吹き出し付きの写真が分かりやすいと感じました。そういった点が良いなと思いました。

最後に啓林館につきましては、下の 49 ページや 51 ページなどの見開きページ右下に、「めくり言葉」が記載されておりまして、

次の学習につながるように工夫がされているなと感じました。

総合的には、私は東京書籍がよいように感じました。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは私からですが、まず、東京書籍でございますが、写真の使い方とか配置、めあてが見開きの左上にあるなど、学びやすい構成になっていると感じました。あと下の 94 ページなんですけれども、「成長した自分の振り返り」、そういったコーナーも非常に良いのかなという感じがしております。

大日本図書でございますけれども、上に 31 ページと 33 ページでございますが、「きもちマーク」といった部分を記入する欄があるなど、自分の気持ちに目を向けさせるような工夫がされているところが特徴的なのかなという感じがいたしました。

次、学校図書でございますけれども、写真をいっぱい使っておられるんですけれども、特に笑顔の写真が掲載されているなと感じられまして、雰囲気的にも特徴的だなと感じました。

続きまして、教育出版でございますけれども、下の 109 ページでございますが、「学びのポケット」という部分がございます、考え方やまとめ方などの思考ツールが分かりやすく示されており、学び方を考えることができる点でいいなと思いました。

光村図書についてでございますけれども、「はるの なかまたち」や「ひろがる せいかつじてん」等の別冊が添付されておりまして、観察などの時に非常に有効であるという感じがいたしました。

啓林館でございますけれども、学習の流れが、単元導入（わくわく）→活動（いきいき）→ふりかえり（ぐんぐん）と構成されておりまして、非常に低学年からも分かりやすいなと思います。

総合的に、学習活用において、光村図書がやや優れているのではないかという感じがいたしました。

それでは、まとめていきたいんですけれども、若干意見が分かれているようでございます。他に補足するご意見がございましたらよろしく願いいたします。はい、高橋委員。

高橋委員： 私が東京書籍ということで、お二人と違う意見になっておりますけれども、改めて、東京書籍と光村図書を見てみますと、二次元コードは、東京書籍の方がかなり多くなっているんですけれども、一方、光村図書のほうは、巻末に画像の切り離せるシートがあっ

たり、「じてん」がついていたりということで、アナログにはなるんですけれども、1・2年生の子どもの発達段階に合わせたものになっているように思いました。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは土川委員。

土川教育長職務代理者： 先ほども、光村図書の部分で発言させていただきましたが、光村図書には、「保護者の皆様へ」というのが多く、上だけ27か所書かれています。当然のこと、学校は、保護者と一緒になって子どもを育てていきます。教科書にどういう関わりをしたらいいのかということを書いてあることで、先生方も保護者に頼みやすいでしょうし、保護者からしてもわかりやすくいいと思います。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。本市におきます、家庭の課題等も踏まえながらのご意見だったと思います。本当に保護者と一体となって、我々学校教育を進めていく必要がございますけれども、特に家庭学習という意味でも、これからそういった充実を図っていく必要がございます。そういったところを加味し、お二人のご意見をまとめますと、光村図書が良いかなと思います。よろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： それでは、まとめさせていただきます。生活につきましては、光村図書でよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： 異議なしということで、生活につきましては、光村図書を採択いたします。

続きまして、音楽を審議いたしたいと思います。音楽は、2社出ております。それでは、土川委員ご発言をお願いいたします。

土川教育長職務代理者： 教育出版については、4年生以上の教科書に、表紙をめくると学年に応じたコラムがあり、児童の興味・関心を高めるという点

でいいと思います。

教育芸術社については、裏表紙に「育もう 伝えよう」があり、地域の文化や芸能が書かれており、日本の文化を知ることができる点がいいと思います。

総合的には、教育芸術社がいいと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員： まず、教育出版につきましては、4年生の12ページや、5年生の53ページなど、二次元コードのまなびリンクがあり、奏法や解説動画・音源・ワークシート・解説資料などが用意されていて、児童が自分の端末を用いて学ぶことができるようになってきている点がいいなと思いました。

教育芸術社につきましては、2年生以上の「みんなで楽しく♪」のページで、たくさんの曲が紹介されておりまして、いろんな合唱や演奏を楽しむことができる点がいいと思いました。これは2年生以上でいいますと、教科書の後半部分にあたりまして、5年では68ページからあたります。

総合的には、教育芸術社の方がいいと思いました。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、私からでございますが、教育出版につきましては、3年生の72・73ページ、あるいは5年生の74・75ページですけれども、他教科と関連する活動や、歌を通して外国語に親しむ活動「ショートタイムラーニング」といったコーナーがあり、いいなと感じました。

教育芸術社につきましては、ページの右上に二次元コードがついており、その数が充実していること、そして児童が自分の端末を用いて音楽を聞いたり、資料を見たりすることができるようになってきている点が優れているかなと思いました。併せて6年生の24ページなんですけれども、著作権について扱っている箇所がございまして、情報リテラシー等の問題に触れておりまして、今日的な部分があるかなという感じがしております。加えて、鑑賞活動でございますが、発達段階に応じた図形とか楽譜が取り入れられている感じがし、その点が優れているかなと思いました。ということで、個人的には、総合的に教育芸術社が評価できるかなと思っております。

では、まとめさせていただきますが、私も含めまして、3名の意見はすべて、教育芸術社がいいというご意見だと思いますが、他にご意見があればお聞かせください。

よろしいですか。

それでは、音楽につきましては教育芸術社ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし

久木元教育長： 異議がないということでございますので、音楽につきましては、教育芸術社を採択いたしたいと思います。

続きまして9種目目でございます、図画工作の審議をいたしますが、図画工作は、2社出ております。それでは土川委員、ご発言をお願いいたします。

土川教育長職務代理者： 開隆堂の、1・2年生の上下56ページの「みんなのギャラリー」では、さまざまな地域の良さを生かした活動が記載されていていいと思いました。

日本文教については、5・6年生の上37ページに道徳やSDGsともつながる内容があり、他教科とのつながりという点でいいと思いました。各学年の裏表紙にも、「つながる図工」がのっていて、子どもの興味・関心が高まると感じます。

総合的に、日本文教がいいと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員： 開隆堂の、全学年のページ下にあります「タブレットたんまつで見てみよう」の表示が、見やすく表示されている点がいいと思いました。

日本文教につきましては、各学年の巻末にアートカードがデジタル上でも活用できるよう紹介されていて、興味・関心を高めるひとつのきっかけになっている点がいいなと思いました。

総合的には、日本文教の方がいいと思いました。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、私からですが、開隆堂につきましては、全体をとおして迫力のある作品とか活

動的な子どもたちの表情がよくわかるようになっていて、学習への意欲を喚起する上で非常に効果的であるように思いました。

日本文教につきましては、5・6年生の上54・55ページ等の「ICTでチャレンジ」といったページがございますけれども、プログラミングともつながるICTを活用した発展的な内容があり、優れているかなと思いました。

非常に悩みますが、総合的に判断いたしますと、日本文教がいいかなと思えます。

では、まとめにはいりますけれども、私も含めまして、3名の意見ということで、日本文教になったと思えますけれども、他にご意見ございましたら、よろしいですか。

それでは意見がないようでございますので、図画工作につきましては、日本文教ということでよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： 異議なしと認めます。ということで、図画工作につきましては、日本文教を採択したいと思えます。

続きまして、家庭科でございます。家庭科は、2社出ております。東京書籍と開隆堂ですね。それではご発言を頂きたいと思えます。土川委員お願いいたします。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、巻末に地域の料理が掲載されており、さまざまな食材を使った日本の郷土料理にふれることができる点がいいと思えました。

開隆堂については、20・28ページ等、各単元のはじめのページにめあてが分かりやすく示され、チェックできるようになっている点がいいと思えました。

総合的には、開隆堂がいいと思えます。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、よろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、8ページから11ページに、「いつも確かめよう」のページがあり、安全面・衛生面に関する配慮がされている点がいいと思えました。

開隆堂につきましては、6・7ページに「気づく・見つける」それから「わかる・できる」次に「生かす・深める」といった学習の流れが分かりやすく書かれているところがいいと思いました。

総合的には、開隆堂がいいと思います。以上です。

久木元教育長： それでは、私からですけれども、東京書籍でございますが、各単元の最初のページに「家庭科の窓」というものを設置して、見方・考え方の視点を意識して学習が進められるような取組をされているところが評価できると思います。

開隆堂につきましては、16・46・64ページ等でございます「キャリアインタビュー」というところで、様々な仕事や活動に携わる人々を掲載して、社会にも視点が向けられるよう工夫している点がいいと思いました。

あと、34ページなんですけれども、子どもたちにとって「できる家庭での仕事」といった部分が記載されていまして、特に伝統的な家族観に触れることなく、今日的な社会体験を踏まえ、子どもたちにとっても、馴染みやすいまとめ方になっているかなと思います。評価できると思いました。

総合的には、開隆堂が若干上回っているかなという印象でございます。他にご意見ございませんか。

では、まとめさせていただきます。

3名の委員ということで、意見を聞きますと、開隆堂ということで、学習の流れの部分や内容面においても工夫がされているということで、開隆堂がいいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： ということで、家庭科につきましては、開隆堂を採択いたしたいと思います。

続きまして、保健に移りたいと思います。保健は、6社出ております。それでは、土川委員からご発言お願いいたします。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、それぞれの学習において「気づく・見つける」→「調べる・解決する」→「深める・伝える」→「まとめ

る・生かす」と4ステップになっており、問題解決の過程が分かりやすく主体的な学びの構成になっていていいと思います。

大日本図書については、3・4年生の22ページや5・6年生の18ページにおいて保健で学習したことを家庭や地域で活用できるよう、「いえで」「ちいきで」のマークを表示しているところがいいと思いました。

大修館書店については、二次元コードが多いわけではありませんが、適度にありいいと思います。

文教社については、全ての内容において1時間ごとにめあてがはっきりと書かれていて、学習内容が分かりやすいところがいいと思います。

光文書院については、記述欄が適度に設定されているのと、思考→判断→表現という学習の流れを、教科書を用いて取り組めるように作られていて、いいと感じました。

学研については、3・4年生の11ページや、5・6年生の11ページなどの、学習の最後に「ほけんのはこ」というコーナーで、単元の総まとめができていて、いいと思いました。

総合的には、記述欄が多く、思考→判断→表現という学習の流れについて、教科書を用いて取り組めるように作られている点から、光文書院がいいと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。土川委員へ確認ですけれども、2つ目におっしゃいました、「いえで」「ちいきで」のマーク表示を評価された会社は大日本図書ですね。

土川教育長職務代理者： 大日本図書です。

久木元教育長： わかりました。それでは高橋委員、よろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、3・4年生の19ページや5・6年生の56ページなど、それぞれの項目で自分の考えを問う欄があり、自分を見つめ課題に向かいやすくて良いと思いました。

大日本図書につきましては、全体的にイラストや写真・文章の色使いが、視覚的にとらえやすいように工夫されているように感じ、いいと感じました。

大修館書店につきましては、3・4年生の17ページや5・6



年生の 20 ページに発展的な学習に取り組むための「はってん」マークが示されておりまして、深い学びにつながると思いました。

次、文教社については、3・4年生の4ページや、5・6年生の17ページなどの「ちょっと待った」というコーナーで、次の学習内容についてのヒントを示されておりまして、学びを深めるような問いの工夫がされていていいと思いました。

次、光文書院につきましては、1時間の授業内容がおおむね見開き1ページにおさめられておりまして、見やすい点がいいと感じました。

最後に、学研については、3・4年生の10・11ページや、5・6年生の14・15ページ等、その多くに自分の考えを書き、交流するページがありますので、友だちと考えを交流できていいと思いました。

総合的に言いますと、自分の考えを書き、友だちと考えを交流できるという点から光文書院と学研がいいと思います。

久木元教育長： それでは、私からでございますが、東京書籍でございますけれども、先程もご発言ありましたけれども、3・4年生の7ページや、5・6年生の21ページなどに、学習の進め方が毎回示されておりまして、單元ごとに授業の見通しがもてる配慮が非常に優れていると思います。また、単元の初めにコメントを書ける欄があるのも見通しをもって学びに向かうという点で評価できるかなと思います。

大日本図書でございますが、3・4年生の26・27ページや5・6年生の14ページなど、たくさんのグラフや統計資料があり、資料を読み取る力が養われるという点で優れているのかなと思いました。

また、大修館書店でございますが、3・4年生の19ページや、5・6年生の11ページ等ですけれども、他教科との関連が示されており、様々な視点で学びを深めるといった面で素晴らしいといった感じがしております。

続いて、文教社でございますが、3・4年生の4・5ページや、5・6年生の8ページ等、毎時間ごとにミッションが記載されており、主体的に課題に取り組めるよう工夫がされているかなと思いました。

続きまして、光文書院でございますけれども、学び方の点でご

ございますけれども、3・4年生の14・15ページ等ですね、単元の後半に「広げよう、深めよう」といったコーナーがあり、時事問題や、気になることについて興味・関心を持って取り組むことができるような構成になっているところが評価できると思います。あと併せてなんですけれども、光文書院ですが、3年生で15ページなんですけれども、スマホの扱い方の注意と睡眠の大切さですね、本当にこれから子どもたちの睡眠時間、これからといいますか今現在、子どもたちの睡眠時間が大きな課題になっておりますけれども、そういった点に触れているところとか、33ページでございますけれども、政治においてLGBTを含めた問題が現在いろいろ話題になっておりますけれども、性自認についても触れているところがいいのかなと思います。それと、5・6年生なんですけれども、18ページで、人との接し方、コミュニケーションの取り方についてを保健で扱うという点がなかなか現代的だなと思いましたし、61ページで、インターネットの依存症、そういった部分への注意喚起が保健の中でされているところが非常に評価できるかなと思います。

続きまして、学研でございますけれども、3・4年生の7ページや、5・6年生の25ページで「つなぐ」といったコーナーがありますが、他学年や他教科とのつながりという部分で工夫がされていると思います。

総合的には、単元の終わりに時事問題や、気になることについて主体的に興味・関心を持って取り組むことができるような構成になっている、そういった点から含めて、光文書院が評価できるかなと思いました。で、まとめに入らせていただきたいと思いますが、現在のところ光文書院と学研とで、意見が分かれていると思います。改めて他にご意見があれば、聞かせて頂きたいと思います。はい。土川委員よろしく願いいたします。

土川教育長職務代理者： 門真の子どもの実態といった部分でいいますと、朝ご飯の喫食率に課題があると感じています。学力調査のアンケート結果からも全国に比べて低いといった状況です。そういったところで考え、府の選定資料を見ていますと、21ページですが、食育に関する指導内容が光文書院は充実しているので、より門真市の実態に依拠しているように思います。以上です。

久木元教育長：ありがとうございます。それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員：先程、土川委員のおっしゃる通りだと思います。門真市の子どもたちが、毎日決まって朝食を食べている子どもが少ないことは気になるところです。私が学研を推した理由の、自分の考えを書き、友だちと考えを交流できるというところなんですけれども、そういう点では学研の方がいいと思いますが、光文書院の教科書でも十分学習することは可能だと思います。現状の門真市の実態を考えますと、光文書院がいいかなと思います。以上です。

久木元教育長：ありがとうございます。2社に絞った形での、論点の整理となっておりますけれども、本市の子どもたちの朝食の欠食率、食育ですけれども、全ての教科において進めていく必要があるかなと考えております。食べているといたしましても、どういったものを食べているのか、夕食も気になるところでございますけれども、現実を踏まえると、もっともっと食育を充実していく必要があろうかと考えております。

ということでございますが、他にご意見はございませんか。よろしいですか。

ということで2社に限って、論点を整理した中で言いますと、光文書院の方が、評価が高いかなという感じがいたしておりますが、よろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

久木元教育長：ということで、保健につきましては、光文書院を採択いたします。

続きまして、英語の審議をいたしたいと思います。外国語は、6社出ております。それでは、土川委員からご発言願います。

土川教育長職務代理者：東京書籍については、デジタル教科書において設問ごとに音声教材があり、聞き取りやすい点がいいと感じました。

開隆堂については、word book が別冊になっていて単語を調べるときに便利なところがいいと思いました。

三省堂については、デジタル教科書の操作アイコンが大きくて使いやすくていいと思います。

教育出版については、5年生の67・68ページにある日本の名所・名物マップが見開きで掲載されており、調べ学習等に活用にもできるところがいいと感じました。

光村図書については、5・6年生の8・9ページの各領域についてのCAN-DOリストが巻頭についているので目標が分かりやすくいいと思いました。

啓林館については、5年生の16ページや、6年生の11ページ等、英語を使用する場面と日本語を使用する場面が分けられていて、子どもたちも理解しやすい点がいいと思いました。

総合的には、デジタル教科書の使いやすさという観点から東京書籍がいいと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、よろしく願いいたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、6年生の10・11ページにありますように、各单元において音声を聞く活動から、学習した語彙や表現を使ってペアやグループで話す活動を行い、さらに書くことへと学習が進むよう構成されているところがいいなと感じました。

次、開隆堂については、5・6年生の32ページなど、各单元の最後に around the world (アラウンド・ザ・ワールド) として、その单元に応じた世界の情報が記載されていていいなと思いました。

次、三省堂については、5年生50ページのHello world!では、日本や外国の多様な文化や、伝統などを取り扱っていて国際理解にも役立つ点がいいなと感じました。

次、教育出版については、5年28ページなど、ゲーム形式などで興味を持って活動に取り組むことができるところが、自然と言語材料に慣れ親しむことができるのでいいなと思いました。

次、光村図書につきましては、デジタル教科書に書き込みを保存できますので、ノートのような学習の記録にしていけるのかなと思ひまして、いいなと感じました。

最後に、啓林館については、5・6年ともに、130・131ページにCAN-DOリストとして、できるようになったことのリストがあり、学習意欲がわく工夫がされていて良いと思いました。

総合的には、デジタル教科書の活用というのも加味しまして、

光村図書・東京書籍がいいと思います。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、私からですが、6社とも遜色なく非常に悩ましかったんですが、まず、東京書籍についてでございますけれども、6年生の6・7ページにあるように、各単元において、児童が自分で文章を考え、英語を使って表現できるよう、実際の生活に則した目的・場面・状況が設定されている点が優れているかなと思いました。また、別冊の使いやすさといった部分も評価できると思います。併せて、全体を通してなんですけれども、英語を学ぶ目的ですね、各学年において世界の文化を知るといふ、言葉だけではなく文化をよく知るといふことが、全学年の教科書を通してうかがえて、良いと思います。意識されているということは良いと思いました。

開隆堂についてでございますけれども、6年の96ページ「中学校でしたいことや頑張りたいことを伝えよう。」というコーナーでございますけれども、その最後に、海外の中学生についての動画がついていて、学びを深める工夫がされているなと感じました。また、6年で学習した表現のまとめも非常に整理されているなと感じました。

三省堂についてですけれども、5年生の52・53ページにありますけれども、児童にとって身近で親しみやすい場面が設定されており、目的・場面・状況を意識したやりとりといった部分がリアルな感じで示されていて評価できるかなと思いました。

次に、教育出版でございますけれども、6年の30ページですけれども、各単元の冒頭でGoalが示されていることと、そして、他の児童に気持ちや考えなどを伝えたいような対話的な活動が設定されているところが非常に特徴的だと思いました。

続いて、光村図書でございますけれども、5年生の22ページでございますが、世界の友達のインタビューが写真付きでございます。デジタル教科書で動画でも見ることができ、国際理解にもつながるので評価できるかなと思います。

啓林館についてでございますけれども、デジタルコンテンツで2～5分と少し長めのものもありまして、会話の世界観が広がるところが評価できるかなと感じました。

総合的に判断いたしまして、児童がより主体的に学べるという観点から光村図書と東京書籍が評価できるかなと感じました。

ただ、英語を学ぶ意義、そういった点から訴える面では、東京書籍の方が優位かなという感じもしたところでございます。

それでは、まとめさせていただきますが、今のところ、ご発言をまとめますと、光村図書と東京書籍の2つの会社が出ているかなと思いますが、改めて、ご意見があればお聞かせいただけますでしょうか。はい。土川委員お願いします。

土川教育長職務代理者： まず、光村図書と東京書籍で、同じところでいうと、4線の活用において、間隔が平等ではなく、真ん中が広く開いているところは同じですね。そして、別冊で辞書がついている部分も同じです。違う部分でいうと、大きさの部分と別冊の辞書が5・6年で1冊が東京書籍、5年用・6年用と2冊になっているのが光村図書で違ってきます。

門真の子どもたちは、英語が苦手というところがあります。大きく見やすい教科書の方が良いような感じがします。別冊で辞書がついているのも、単語を調べるときに5・6年で共通の1冊の方が便利でいいように思います。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員： 先程、土川委員からもありましたように、門真の子どもたちの課題の一つに、英語力があります。光村図書では、巻頭にCAN-DOリストがありまして、子どもたちが常に意識することができるようになっています。この点につきまして、光村図書がいいなと思うのですが。一方、内容を見ていきますと、教科書を開いたときに引き付けられるのは、東京書籍の方かなと思います。また、構成におきまして、何をするのか、わかりやすく示されているのも東京書籍の特徴かなと思いました。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。本当に、英語教育は本市におきまして大きな課題のひとつでございます。チャレンジテストの分析では、ライティングやリーディングに課題がある、そういった傾向が出ておりました。小学校段階で、ライティングはそこまでは求められていませんが、リーディングにつきましては、東京書籍では、6年80ページなどに、「文を読んでみよう」と大きく明記されており、子どもたちも意識して学ぶことができ、力を育むことにつ

ながら評価できるのではないかなと思いますが、他にご意見はありますでしょうか。

はい、土川委員お願いいたします。

土川教育長職務代理者： 府の選定資料を見ていまして、他教科のリンクであったり、ふりかえりの数も東京書籍は充実しているように感じます。英語だから英語でといったことでなく、他の教科とつなげて取り組むことが、力を育む近道だとも思いますので、東京書籍がいいのかなと思います。

久木元教育長： ありがとうございます。それではご意見ございましたけれども、総合的に東京書籍の方へ落ち着いてきたかなという気がいたしますがよろしいでしょうか。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、英語につきましては、東京書籍を採択いたします。

それでは続きまして、道徳の審議に入りたいと思います。道徳は、6社出ております。まず、土川委員ご発言お願いいたします。

土川教育長職務代理者： 東京書籍については、各学年6ページにある「どんな学びをするのかな」で学び方・考え方が示されていて、わかりやすいと思います。

教育出版については、3年生以上の6ページに「道徳の学習をもっと広げよう」のページがあり、二次元コードやタブレットの活用などを促しているところが子どもの主体的な学びにつながるのでいいと感じました。

光村図書については、5年生の84・85ページの「インターネットの特性とマナー」では、身近な問題についてとりあげられており、子どもたちにとってイメージがしやすい点がいいと感じます。

日本文教については、目次に記載があるのですが、「心のベンチ」のページでは、学習したことについて、他の教科とつなげたり、考えを広げたりすることができ、いいと思います。

光文書院については、各学年の巻末に「ことばのたからもの」

のページがあり、有名な詩人のすてきな言葉が紹介されていていいと思いました。

学研については、絵や写真などが、効果的に活用されていて、見やすく工夫されているのが良いと思いました。

総合的には、有名な詩人の言葉は子どもにとっても心を揺さぶるものになると思うので、光文書院がいいと感じました。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは高橋委員、よろしくお願いたします。

高橋委員： 東京書籍につきましては、目次を見るとわかるのですが、他の学習とつなげたり、普段の生活に広げたりできるような「つながる∞広がる」があり、工夫されていていいなと思いました。

次、教育出版については、5・6年生の教材本文の下に、難しい言葉に関しては意味が書かれていて、内容を理解するのにはいいなと思いました。

次に、光村図書につきましては、2年生以上の巻頭にある「みんなで気持ちよく話し合うためのこつ」のページでは考えを比べたり、相手の考えを大切にしたりするためのこつが示されている点がいいなと感じました。

次、日本文教については、全学年に道徳ノートが用意されており、その時の考えが書き込めるようになっていて、しばらくしてからその時の自分の考えを振り返る時にも活用できて、いいなと感じました。

次に、光文書院については、各学年の6・7ページに考え方や思考ツールが示されておりまして、活用しやすい点がいいなと感じました。

次に、学研については、巻末の「つなげよう 広げよう」で、学年のふりかえりと次の学年に向けたメッセージがあり、つながりを考えた内容になっている点がいいなと感じました。

総合的には、東京書籍・光文書院がいいなと思いました。

久木元教育長： ありがとうございます。それでは、私からですが、まず東京書籍でございますが、裏表紙の「保護者の皆様へ」というところが大きく表示されていて、家庭でも活用してもらえ



といった意図がうかがえていいと思います。内容面ですけれども、1年生の96ページにあります、「どうぶつのかぞく」というものが取り上げられております。特に今日、家族の多様性を考えるときに、そういったところから考えるヒントとなるような、そういう面では、教材として素晴らしいのではないかという感じがいたしました。あと6年生なんですけれども、120ページに「権利と義務」という項目、テーマがございます。今日、国家間あるいは個人間の争いというのが、非常に社会を賑わすといえますか、ニュースになっている訳わけでございますけれども、いかにその対立の中で権利と義務の調整を図るかということが大事だということ、またその難しさを実感させるかという、そういった項目として、非常に大事なテーマだと考えております。併せて182ページなんですけれども、「夢」というコーナーがあるんですけれども、夢を持つということの大切さと共にですね、夢が叶わないことがある、と。現実にはほとんどそういった分が多いかと思うんですけれども、大切なのはそこからの挫折から、いかに立ち上がるかというレジリエンスですね、そういった部分での気づきを与えるという教材として非常に優れているかなと思いました。

続きまして、教育出版でございますけれども、巻末の「資料」がそれぞれの学年に応じた内容となっております、4年生であればいらしたときの対処方法、5年生であればSDGs、6年であれば世界人権宣言についてなど、発達段階に応じた内容となっているところが、優れているかなと思いました。

光村図書につきましては、3年生以上の巻末に「学びの工具箱」という付録のページがあり、くらげチャートやフィッシュボーンなどの思考ツールを学ぶことができ、考えが深まるという点を評価したいと思います。

日本文教についてでございますが、よりよく生きるということを問いかけることは非常に難しいと思うのですが、5年生の6ページから9ページに、親しみやすいアニメキャラクターを用いて、子どもにとって考えやすい工夫がされているなと思いました。また、2年生の42ページなんですけれども、「泳げないリス」という項があるんですけれども、SOSの発信の大切さですね、困ったときにどうやってSOSを発信するか、という部分での気づきに繋がるという面でも、評価できるのではないかなと思いました。

続いて、光文書院ですけれども、内容項目がバランスよく配置

されておりまして、各学年 40 時間分の教材が設定されており、実態に合わせて調整出来るようになっていくところが特徴になっているのかなと思います。ただ現実には、なかなか 40 時間こなすのは難しいのかなという気がしております。

続いて、学研についてですけれども、各学年の巻頭に美しい自然の写真と心に残しておきたいメッセージが書かれているところが印象に残っております。

総合的に申し上げますと、1つは問題解決型思考、対話の重要性を訴えかけているということ、そして、レジリエンスを明確に意識されているということ、そういった部分において、東京書籍が優れていると感じております。

それでは、まとめさせていただきたいと思いますが、現在のところ光文書院と東京書籍で、意見が分かれています。

改めて、ご意見があればお聞かせいただきたいと思います。はい、高橋委員。

高橋委員： その2つで比べますと、道徳は、週に1時間の設定が標準ということですので、1時間ということは、つまり45分で完結させないといけないということになります。それに加えて、考えて議論する教科であるということも聞いております。そうなりますと、45分間でたくさんのお話を議論ができるわけではありません。光文書院は、物語の後に「考えよう」が2つ、「まとめよう」「広げよう」が1つずつ、計4つの課題があります。物語を読むことも考えると、1つにかかる時間が短くなります。ということは議論にさける時間が短くなるということです。一方でしかし、多くのことを議論できるとも言えるかと思えます。

一方、東京書籍の方は、物語の後に3つで、しかも二重丸とマルになっていますので、時間の軽重をつけやすい。東京書籍の方がしっかり話し合うことができるのではないかと思います。

門真の子どもたちには、1つのことでもいいですので、十分に時間を保証してあげて、しっかりと話し合ってもらいたいと思っておりますので、東京書籍の方がよりいいかなと思います。以上です。

久木元教育長： ありがとうございます。土川委員お願いいたします。

土川教育長職務代理者： 子どもたちの心を揺さぶるといった意味で、光文書院がいいと

先ほど言いましたが、高橋委員と同じく、門真の子どもたちには、しっかりと話し合っ、自分の考えを持ってほしいと願っています。非常に厳しい生活環境の子どもも少なからずいるわけで、そういう子どもたちにも未来を堂々と歩んでもらいたい。そのためには、必要なことについて焦点を絞って話し合ってもら。道德の時間はそうあってほしいと考えるので、東京書籍がよいように思います。

久木元教育長： ありがとうございます。まとめになりますけれども、本当に子どもたちがしっかりと限られた時間の中で議論するという事はとても大事だと思います。つけ加えて申し上げますと、家庭でもそういった議論をする、話し合うということ、どんどん進めていければ、本当に門真の子どもたちにも明るい未来が可能になるのではないかと考えております。そういった意味で、教科書の裏表紙に、東京書籍・光文書院どちらも載っておりますけれども、保護者へのメッセージがはっきりと書いてある中で、東京書籍のメッセージ性がより優位ではないかという印象があります。

ということで、他にご意見ございますでしょうか。よろしいですか。

ということでまとめますと、道德につきましては、総合的に判断して、東京書籍にまとまったかと思っておりますけれども、よろしいですか。

全委員： 異議なし。

久木元教育長： 異議なしということで、ありがとうございます。道德につきましては、東京書籍を採択いたします。

以上、13種目でございました。ありがとうございました。それではこの場での結論として、採択した教科書、図書を申し上げます。

国語につきましては、東京書籍「新編 新しい国語」  
書写につきましては、東京書籍「新編 新しい書写」  
社会につきましては、東京書籍「新編 新しい社会」  
地図につきましては、帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」  
算数につきましては、啓林館「わくわく算数」

理科につきましては、啓林館「わくわく理科」  
生活につきましては、光村図書「せいかつ たんけんたい」  
音楽につきましては、教育芸術社「小学生の音楽」  
図画工作につきましては、日本文教「図画工作」  
家庭につきましては、開隆堂「わたしたちの家庭科」  
保健につきましては、光文書院「小学 保健」  
英語につきましては、東京書籍「NEW HORIZON Elementary English Course」  
道徳につきましては、東京書籍「新編 新しい道徳」  
になります。以上を採択いたしたいと思っております。ありがとうございました。  
それでは、審議が終了しましたので、松宮委員、澤田委員にご入室お願いしたいと思います。

[松宮委員 澤田委員 入室]

久木元教育長： それでは会議を続行いたします。両委員には、議案第20号は、原案のとおり可決いたしまして、議案第21号につきましては、国語につきましては、東京書籍  
書写につきましては、東京書籍  
社会につきましては、東京書籍  
地図につきましては、帝国書院  
算数につきましては、啓林館  
理科につきましては、啓林館  
生活につきましては、光村図書  
音楽につきましては、教育芸術社  
図工につきましては、日本文教  
家庭科につきましては、開隆堂  
保健につきましては、光文書院  
英語につきましては、東京書籍  
道徳につきましては、東京書籍を採択したことを報告いたします。

以上をもって、本定例会に付議されました事件は、全て議了しましたので、会議を閉じ、令和5年門真市教育委員会第7回定例会を閉会いたします。

久木元教育長            閉会宣言      午後 3 時 55 分

門真市教育委員会会議規則第 24 条の規定により署名する。

門真市教育委員会

教 育 長      久木元 秀平

署名委員      土川 好子